

記 者 発 表 （ 資 料 配 布 ）				
月／日 (曜日)	事務所名等	電話	発表者 (担当者)	配布先
10/30 (金)	県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター	0796- 36-0395	所長 眞鍋 厚 (次長 大野 泰史)	但馬県民局・ 県政記者クラブ

令和 8 年漁期ズワイガニ資源の状況

但馬水産技術センターでは、11 月 6 日から解禁となる日本海のズワイガニ漁を前に、県漁業調査船「たじま」により漁期前調査を実施しました。

当該調査やその他の情報に基づいて検討した結果、令和 8 年漁期の本県沖合底びき網漁船が利用する海域のズワイガニ資源の状況は下記のとおりです。

記

1 但馬沖漁場（解禁直後）

- ・本県沖合底びき網漁船が解禁直後に利用する但馬沖漁場のオスがにの現存尾数は、前年及び過去 5 年平均を上回ると推定されました。また、メスがに（クロコ）の現存尾数は、前年及び過去 5 年平均並みと推定されました。

2 浜田沖～丹後沖漁場（漁期全般）

- ・本県沖合底びき網漁船が漁期を通じて利用する浜田沖～丹後沖漁場全体のズワイガニ資源量は、オスがに、メスがにともに前年を上回ると推定されました。

根拠となった情報については別添資料（但馬水産技術センターだより）を参照してください。

問い合わせ先

兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター

研究員 田村一樹

電話 0796-36-0395



但馬水産技術センターだより



漁況情報（G2639 号）

令和 8 年 10 月 30 日

兵庫県立農林水産技術総合センター

但馬水産技術センター 発行

令和 8 年漁期 スワイガニ資源の状況

調査船「たじま」の調査結果などから見た、令和 8 年漁期の本県沖合底びき網漁船が利用する海域のスワイガニ資源の状況について報告します。

1. 推定されたスワイガニ資源の状況

但馬沖漁場（解禁直後）

本県沖合底びき網漁船が解禁直後に利用する但馬沖漁場のオスが^{*1}の現存尾数は、前年及び過去 5 年平均を上回ると推定されました。また、メスが（クロコ）の現存尾数は、前年及び過去 5 年平均並みと推定されました。

浜田沖～丹後沖漁場（漁期全般）

本県沖合底びき網漁船が漁期を通じて利用する浜田沖～丹後沖漁場全体のスワイガニ資源量は、オスが^{*2}、メスがともに前年を上回ると推定されました。

2. 根拠となった情報

但馬沖漁場（解禁直後）

調査船「たじま」によるスワイガニ漁期前調査（調査月：10 月）

調査船「たじま」により、2026 年 10 月 5、6、13～14、15 日に香住沖の水深 200～350m、浜坂沖の 235～240m 及び津居山沖の水深 240～245m に設けた計 12 定点（図 1）でトロール網（3 ノット、30 分曳き）による試験操業を実施しました。

オスが^{*1}は、香住沖の水深 275m 及び津居山沖の水深 245m での入網が中心でした（表 1）。入網結果から推定された但馬沖漁場の現存尾数は 7.4 万尾で、前年比 123.3%、過去 5 年平均比は 118.2% となりました（表 2）。

メスには、香住沖及び浜坂沖の水深 240m での入網が中心でした（表 1）。入網結果から推定された但馬沖漁場の現存尾数は 21.3 万尾で、前年比 92.6%、過去 5 年平均比 99.0% となりました（表 2）。

なお、前年度及び今年度調査で入網したスワイガニの甲幅組成は図 2、入網したスワイガニのうち、自主規制により漁獲対象となるオスがの甲幅組成は図 3 のとおりです。

浜田沖～丹後沖漁場（漁期全般）

水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部調査（調査月：4～6月）

水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部は、2026 年 4 月から 6 月にかけて、日本海 A 海域（富山県以西）に設定した計 135 調査点で、トロール調査による資源量調査を実施しました。その結果、2026 年漁期当初の資源量はオスが^{* 2}が前年を上回ると推定しており（図 4）、特に甲幅 120mm 以上の大型個体は昨年に比べ増加傾向としています。メスがにも前年を上回ると推定していますが（図 4）、隠岐北方、隠岐周辺及び但馬沖については近年並みとしています。

3. その他の情報

- アカコの現存尾数は、前年を上回ると推定されましたが、前年に続いて低水準で推移しています。11 月はアカコの混獲があった場合、迅速な再放流を行い、次漁期の資源を少しでも残すことに努めてください。（次漁期には、アカコがクロコとして漁獲可能となります。）
- 2028 年漁期以降に漁獲対象となる若齢個体（雌雄とも）の現存尾数についても、前年に続いて少ないと推定されました。若齢個体も 11 月は再放流後の生残率が低いいため、それらが混獲される海域での操業は控えてください。
- アカガレイの 1 網当たり平均入網重量は 11.5kg で、前年を下回りました（表 1）。
- 大型クラゲの入網は昨年同様、わずかし確認されませんでした、引き続きご注意ください（表 1）。

以上、解禁初日の漁場選択の参考にしてください。

* 1：甲幅 105mm 以上でハサミが大きいかたがに

* 2：甲幅 90mm 以上でハサミが大きいかたがに

お問い合わせ先：兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター（担当：田村・岸本・大谷）

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

HP：<http://hyogo-suigi.jp/tajima/>

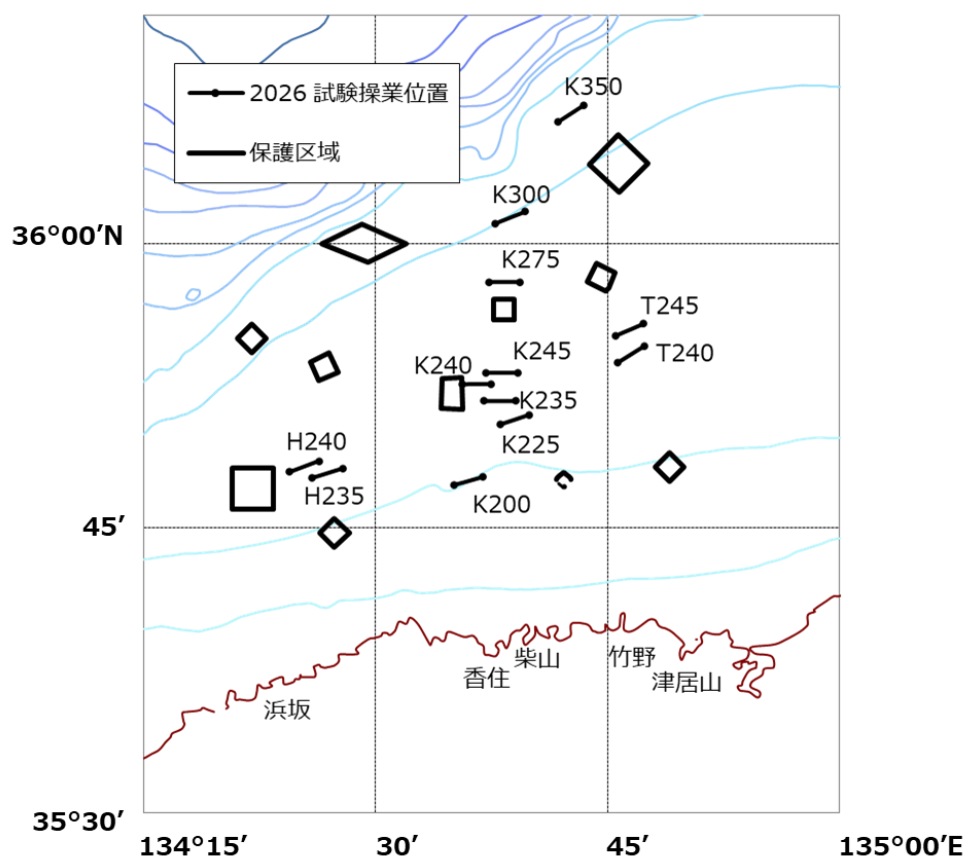


図 1 但馬沖調査海域図

表 1 漁場別のズワイガニ等入網状況

漁場	年月日	操業地点	曳網水深 (m)	ズワイガニ 入網数 (尾/網)		アカガレイ 入網重量 (kg/網)	大型クラゲ 入網重量 (kg/網)
				オスガニ	メスガニ (クロコ)		
津居山沖	2026/10/6	T245	246 → 243	13	4	20.8	10.1
	"	T240	239 → 235	7	6	7.3	7.5
香住沖	2026/10/13	K350	347 → 345	1	0	欠測	0.0
	2026/10/14	K300	302 → 301	3	0	7.1	0.0
	"	K275	278 → 272	11	0	4.4	0.0
	2026/10/13	K245	249 → 243	9	70	13.5	0.0
	"	K240	244 → 249	5	149	21.8	0.0
	"	K235	239 → 229	4	21	3.4	0.0
	2026/10/15	K225	224 → 226	3	0	6.9	0.0
浜坂沖	"	K200	200 → 199	1	0	7.9	0.0
	2026/10/5	H240	240 → 241	7	172	12.3	0.9
	"	H235	236 → 237	2	65	20.6	0.0

表 2 調査海域におけるズワイガニの推定現存尾数（単位：万尾）

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	前年比	過去 5 年 平均	過去 5 年 平均比
オスガに	6.8	7.1	4.9	6.5	6.0	7.4	123.3%	6.3	118.2%
メスガに (クロコ)	35.7	13.5	21.4	14.0	23.0	21.3	92.6%	21.5	99.0%

※採集効率は 1.0 とし、東経 134°20′～134°50′（居組～津居山間）で水深 190～360m の範囲における推定現存尾数

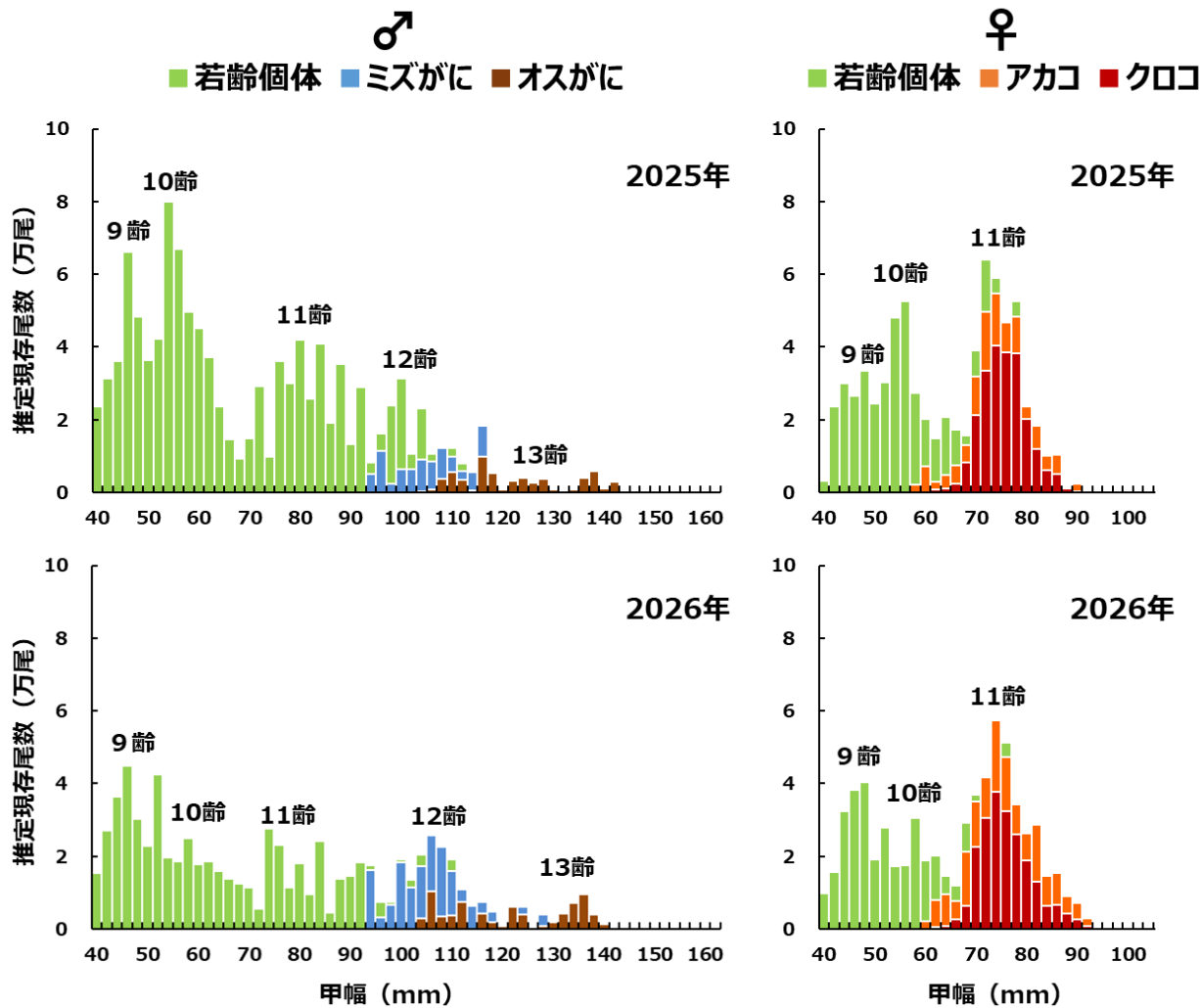


図 2 2025、2026 年のズワイガニ漁期前調査結果から得られたズワイガニの甲幅組成（10 月、但馬沖漁場）
※図中のミズガには、来漁期に甲幅 105mm 以上のかたがとして漁獲可能な個体

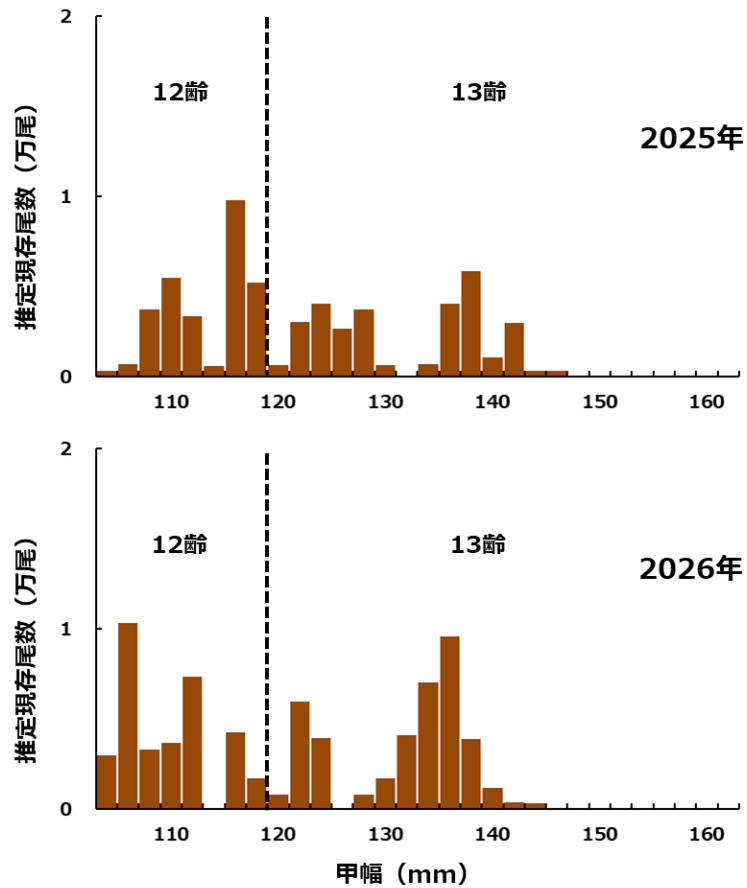


図3 2025、2026年のズワイガニ漁期前調査結果から得られた
漁獲対象（甲幅 105mm 以上）となるオスガニの甲幅組成（10月、但馬沖漁場）

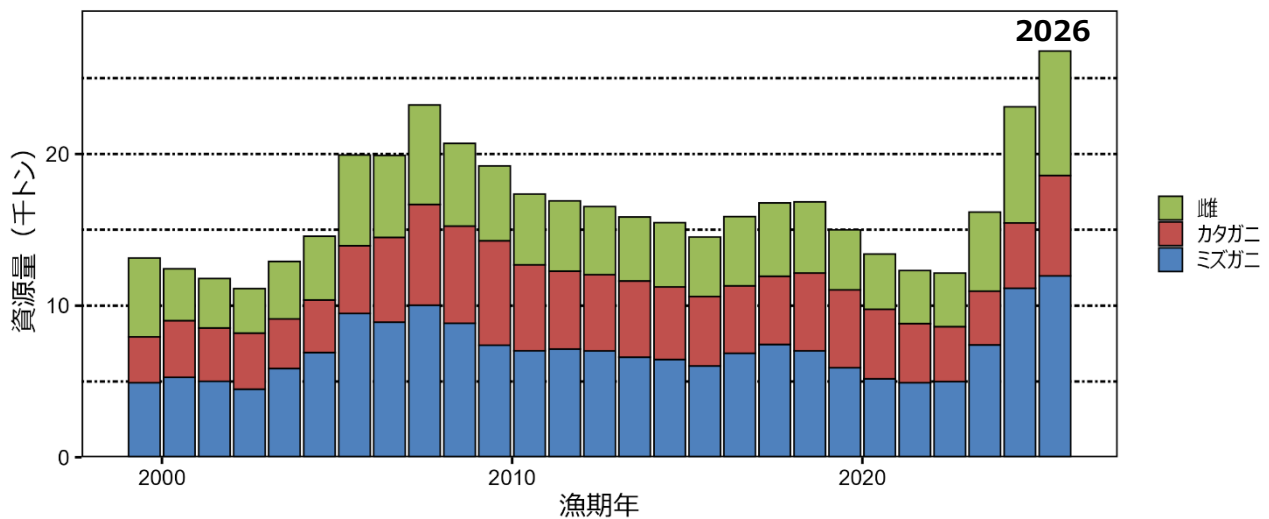


図4 日本海A海域（富山県以西）における推定資源量
（水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部 作成資料より）
※図中のミズガニには、漁期開始前に脱皮をした90mm以上の個体